

人・街・ながた 震災資料室ニュース

2008. 7. 17

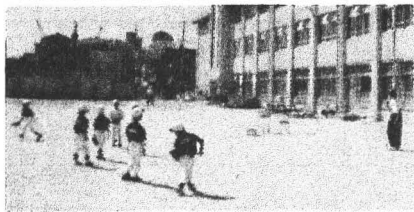
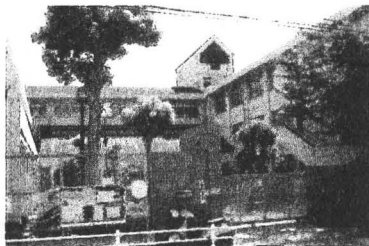
発行人 寿 広文

編集人 武川泰恵・藤原美紀

自治労長野へ聞き取り調査

「聞き取り調査」の作業が着々と進んでいるが、前号で触れた自治労長野県本部への聞き取り調査が決定した。

8月18日(月)～20日(水)の日程で、当資料室から5名と神戸学院大学水



本ゼミから3名の計8名で、長野県本部・長野市社協・飯山市職・信濃町職・上田市職(旧丸子町職含む)・岡谷市職・辰野町職・飯田市職・茅野市職の1本部8単組(対象者約20名)を2班体制で訪問し、調査を行う。

そもそも今回、自治労長野県本部を調査の対象としたのは、①同本部の主な活動場所であった真陽小学校での非常に細かく書き残された業務ノートが残存していること ②自治労本部から当資料室へ戻ってきた資料と突合せができること ③同本部としての報告書を製本して残されており活動の記録が正確かつ詳細、ということで記録を辿りながら、神戸市職員とはまた違った視点や感覚で当時の体験や教訓、感想を伺うことができるのではと考えたからである。

聞き取り事項については、①参加動機②当

静岡県牧之原市議会総務委員会の皆さんが視察研修に来室されました。

時神戸に入っの感想③職員の体制について外部からはどう感じたか④一番記憶に残ったこと⑤一番困ったこと⑥支援の経験がその後の仕事に何か糧になったか、等を中心に、各組織1時間半～2時間程度で忌憚のないお話を伺うことにしている。

また調査のみならず、この再会の機会に交流を深め、さらに強いつながりが持てる取り組みになるよう願っている。

この調査の実現にあたって自治労長野県本部をはじめ各単組の皆様には、快くお引き受け下さり、また迅速に調整していただきましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

東京・江戸川区と交流

江戸川区シルバー人材センター事務局渋谷さんを含めて3名の方の訪問を受けた。

江戸川区は東京都の中でも東に位置し、標高が低く水害がおきると区域の大部分に浸水被害がでるとのことであった。江戸川区では、災害がおきたときに実働できるように課題別にプロジェクトチームを作り、渋谷さん達は応急救護のプロジェクトチームとして現在活動されている。

備蓄品、避難所、避難経路、当時の職員体制等々活発な意見交換ののち、7階ロビー設置の常設展示をご覧いただいた。

大きく変貌する街・水笠通

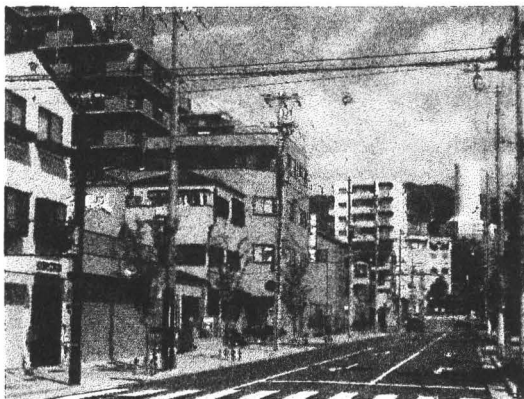
4回の国勢調査を比較して⑧

机の上に 1953 年の神戸市都市計画街路図と 2006 年の住宅地図を広げている。

復興の街づくりで大きな変化をした街の一つが水笠通である。2 回に分けて報告する。

大正 11 年 3 月に西代村の上水笠、陣具、ハガン田、横枕、五反田

等が水笠通となった。真野の入り江に面した水の多い低地との説がある。



震災による被害は全壊（焼）率が 79.6%と高く、1 丁目は西代ビルを除いて全て戦後に建てられており、グラウンドや公園そして YMC A があった。

西代ビルは 1930（S5）年 7 月に建てられ、元は神戸高等工業学校の土木科教室で、学制改革で神戸大学工学部になった。なお解体の折には多量の松杭が掘り出されている。

	1965 年	1975 年	1985 年	1990 年	1995 年	2000 年	2005 年	05 90
世帯数	1,064	982	847	783	219	427	641	0.82
人口	4,056	3,151	2,353	2,044	602	1,137	1,565	0.76
1 丁目	495	460	326	259	102	342	416	1.61
2 丁目	857	615	450	387	115	83	30	0.08
3 丁目	761	560	430	389	111	296	457	1.17
4 丁目	571	434	345	279	177	63	277	0.99
5 丁目	754	590	440	387	41	112	130	0.34
6 丁目	618	492	362	343	56	241	255	0.74

2 丁目から 6 丁目は戦前（大正中期）の建物も多く住宅や町工場が混在していた。

火災は地震直後の 5 時 47 分頃に 5・6 丁目から出火し、同時に須磨区千歳町でも出火し 12 時頃まで北及び東方向に拡大し、14 時頃まで西及び南方向に移り、千歳小学校南側へは 18 時 30 分頃であった。大火であった。

2002 年 3 月、水笠通にある蓮生寺の石井弘宜住職より、法要の時に「兄が震災で亡くなったがモニュメントに名前が載っていない」との話が出て、私共に依頼があった。調べると 5 丁目で焼死したのだが、警察は無縁仏の扱いであった。震災による死因別をみると長田区は焼死が多いのが分かる。

ところで表を見てみよう。1990 年まで減少が続いていたのが震災で激減し、以降は街づくり計画のもとでの人口動態となっている。区画整理事業として進められているので以前の私道などの細街路はなくなり、全戸が公道に面することになった。〈続く〉